

大学生による地球環境に配慮した新たなライフスタイル発掘プロジェクト  
～ 伊勢志摩サミット (2016. 5. 26～27) に向けて ～

●概要

平成 28 年 5 月に開催される伊勢志摩サミットを見据え、県内の大学生が環境に配慮した乗り物（電気自動車等や自転車）で伊勢志摩を周り、1300 年以上の昔から自然と人とが調和し共生してきた伊勢志摩の文化や歴史に体験を通じて触れることで、地球環境の保全と私たちの暮らしとのつながりについて学びます。

そして、今後の地球環境に配慮した新しい豊かなライフスタイルについて考え、将来社会を担う若者の立場から、提言やアピールとして情報発信を行います。

●スケジュール

第0回	提案企画会議	平成 27 年 12 月 18 日（金）
第1回	伊勢志摩巡り	平成 28 年 1 月 23 日（土）
第2回	伊勢志摩巡り	平成 28 年 2 月 24 日（水）
第3回	検討会	平成 28 年 5 月頃

（実際に伊勢志摩の環境や文化・歴史に触れた後、検討会を実施し、国や県へ提言等を行う）

●参加学生

三重大学生 30 人程度

皇學館大学生 10 人程度

●伊勢志摩巡りの様子



伊勢市駅前に集合



EVや自転車で伊勢を周遊



伊勢市長表敬訪問



海の博物館で海女さんと交流（鳥羽市）

# 環境問題テーマに 三重大生らが会議 世界に向けた提言へ

**伊勢志摩サミット**  
**2016**

伊勢志摩サミットに向け、環境問題に取り組む三重大の学生団体などが会議を開き、地元元が主体となつて、サミットを機に世界に向け環境分野での提言を行うための方策を話し合った。

主催した人文学部朴恵淑教授は、昨年11〜12月にパリで開催されたCOP21にオース

ザバーとして出席した。朴教授はパリ会議を振り返り「環境問題を担う主体として若者、女性、地方自治体が盛り込まれたのは画期的。地方が主導権を握り、国をリードしなければならぬ」と地元元が行動することの意義を語った。

会議には同大の環境



学生にサミットに向けた活動の意義を語る朴恵淑教授(右)―津市の三重大で

1月14日毎日新聞

**伊勢志摩の観光あり方調査**  
**学生市長に成果報告**

伊勢志摩地域で自然の学生が、伊勢市役所に提出した観光文化や環境に優しい観光のあり方を現地調査した。

伊勢志摩サミットに向け、地域の良さを再発見しようと、一月に始まった取り組み。この日は三重大が市内の観光地を自転車で巡り、環境問題や電気自動車



伊勢志摩地域の観光あり方調査の様子(左)―伊勢市役所で

3月5日中日新聞

# 地域ぐるり 文化再発見



**大学生 伊勢志摩で学習**

大生が伊勢志摩地域を巡り、自然と共存する歴史文化を、環境学習が二日、伊勢市内で始まった。活動を通して、伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。

**国県へ5月提言**

三重大人文学部の朴恵淑教授らが、サミットを機に重なる文化を再発見し、もたらすと企画、希望した。

伊勢志摩サミットに向け、伊勢志摩地域を巡り、自然と共存する歴史文化を、環境学習が二日、伊勢市内で始まった。活動を通して、伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。

並走生市街の自転車で、伊勢志摩サミットに向け、伊勢志摩地域を巡り、自然と共存する歴史文化を、環境学習が二日、伊勢市内で始まった。活動を通して、伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。

1月24日中日新聞

**伊勢志摩サミット**  
**三重大生ら伊勢志摩視察**

伊勢志摩サミットに向け、伊勢志摩地域を巡り、自然と共存する歴史文化を、環境学習が二日、伊勢市内で始まった。活動を通して、伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。



伊藤さんから説明を受ける三重大生ら―志摩市阿児町橋方の横山展望台で

1月24日伊勢新聞

**地域の文化環境考える**  
**共同事業を市長に報告**

伊勢志摩地域を巡り、自然と共存する歴史文化を、環境学習が二日、伊勢市内で始まった。活動を通して、伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。伊勢志摩サミットに合わせた提言をまとめる。

2月25日伊勢新聞